

自立するためには

城南中学校 二年 江寄 深月

私には昔から好きな歌があります。デイズニー映画である「リトル・マーメイド」の「パート・オブ・ユア・ワールド」という歌です。この歌は、十六歳のアリエルという人魚のお姫様が歌う劇中歌です。彼女は好奇心が旺盛で、人魚の世界にはない陸の道具をたくさんコレクションしています。しかし彼女は、集めた道具の名前や使い方を知りません。そこでもっと外の世界を知りたい、との思いを「分からないことたくさん」「教えてほしいことたくさん」と歌うのです。

中学生になって「陸にはいないわ あんな分からずやは 私は子供じゃないのよ」と、親から離れ自立して生きることを夢見て歌っている部分が、特に私の心に残るようになりました。アリエルは、外の世界に憧れつつも、海の上に出ることは許されていません。毎日の暮らしに不自由はなくとも、息苦しさを感じていました。彼女と同様に、生活に不自由を感じてはいませんが、中学生の私は早く大人になって、自分の思うように自立して行動したいという気持ちが強くなっています。そんな私の理想や価値観が、母とぶつかることが最近増えてきました。分からないことがたくさんある自分のことを「子供だ」と自覚しながらも、「子供ではない、早く自立したい」と感じる自分がアリエルと重なります。

「自立」という言葉を調べると「自分以外のものの助けなしで、または支配を受けずに、自分の力で物事をやっていくこと」とありました。もう少し調べてみると、日常生活に必要な行動を行える「身体的自立」、自分の考えや感情をコントロールし、主体的に行動できる「精神的な自立」、経済的に安定した生活を送れる「経済的な自立」、社会に貢献できる「社会的な自立」からなることが分かりました。

そこで、自分自身を振り返ってみると、身体的には早起き以外の身の回りのことはできますが、洗濯や料理などの家事全般は母に頼りきりです。働いて収入を得ているわけではないので経済的には自立できていません。精神的には、学校生活、生徒会活動などを通して、自分の意見を主張したり客観的に分析することができるようになりました。しかし、勉強をすべきだと分かっているのにもかかわらず面倒に感じて後回しにしてしまうこともあり、自立に向けては課題があります。

次に、アリエルについて考えてみました。身体的にはほとんどのことは自分でできますが、お城の家事は召使いにやってもらっています。経済的には、自立しているとは言えませんが不足はありません。社会的に

は、ボランテイア活動などを通して貢献しているようです。精神的には、自分の感情に流されて大切なコンサートを休んだり、自分の興味に駆られ王国が決めたルールを破ったりと課題がありました。しかし、命に危険が及ぶ冒険をしたり、魔女との契約で声を失ったりという試練を乗り越え、最後には仲間や父親の協力と理解を受け、自立していきまう。アリエルの場合はヒレが足に変わるので本当に自立と言えるでしょう。

では、私はどうしたら自立できるのでしょうか。アリエルのような危険は冒せませんが、外の世界に興味をもち視野を広げることとは十分可能です。学校の勉強は知らない世界を知る助けになります。また身近なことから学べることも多くあります。私は今年の母の日に、すべての家事を母の代わりに担当しました。たった一日だけでしたが、時間に追われとても大変でした。母を尊敬するとともに感謝で心がいっぱいになりました。そして、アリエルのようにいろいろな人々に支えられているのだと改めて感じました。まだまだ親のことを「分からずやだ」「私を子供扱いしている」と思うことがあります。それでも私は、いろいろなことに興味をもち周りへの感謝を忘れずに、私なりの自立を目指していきたいです。